2017年12月28日

視覚障がい者福祉協会設立

西村 富明
（沖永良部国頭・西村書斎主宰）

1995年鹿児島県立短期大学へ就職するための健康診断で、網膜色素変性症だと診断された。その時はまだ車の運転もでき、活字も読めたので、失明の不安はなかった。しかし、15年後の2010年には活字が読めなくなって、11年3月に退職した。

日本では網膜色素変性症の手術はまだできないが、キューバでは、進行を止める手術が行われていたので、12年2月にキューバで手術を受けた。私の手術を担当したキューバのラサロ先生が13年8月、わざわざ沖永良部へ来てくれて、「キューバの医療事情」の講演で、キューバでの手術の方法を解説してくれた。

15年9月には、東京在住の全盲の佐野彰芳さんが来島して、沖永良部の私たち視覚障がい者と情報交換を持った。このような中で、沖永良部で視覚障がい者の団体を作る機運が高まった。

昨年12月、「沖永良部視覚障がい者福祉協会」を設立した。この会は、視覚障がい者の自立促進に寄与することを目的にして、会員は、沖永良部島に居住する視覚障がい者（家族を含む）および支援者とした。つまり、健常者が会員になれることに特徴がある。

会長は筆者（障がい者）、副会長は清水信子（障がい者）、事務局長は今栄徳武（健常者）、監事は知名町議の奥山直武（健常者）である。

会員はこれまで、どんな福祉サービスがあるのか分からなかったが、勉強することで公的制度を知り、活用できるようになった。まず、会長の私が和泊町保健福祉課に「プレックストーク」（デジタル録音図書の再生機）を申請した。今年度は、副会長の清水さんが知名町保健福祉課に「携帯拡大読書器」を申請した。私も9月に、同じものを申請し、10月上旬には取得できた。両保健福祉課とも、親切かつ迅速に対応してくれた。

私は、プレックストークで、三木清著の「人生論ノート」を聞いている。読むのは大変だが、聞くことは簡単である。この難解な本をプレックストークのおかげで、理解できる。視覚障がい者の皆さんには「日常生活用具」の受給を受けて、楽しい充実した生活を送ることを勧めたい。